第２回富田林市観光ビジョン策定委員会　会議録

１．日時　　令和８年１０月７日（水）午後２時～４時

２．場所　　すばるホール４階会議室（旧秀月の間）

３．出席者　【委員】

和泉会長、岩城委員、木下委員、塩見委員、有村委員、藤原委員、芝本委員

（杉多委員・佃委員欠席）

【事務局】産業部：西田部長

商工観光課：山本課長、辻本参事、高橋主幹、柏木係長、磯嵜氏

大阪観光局：浅田氏、石丸氏

Vpon JAPAN：森口氏

アルパック：山口氏、酒井氏

４．会議形態　公開（傍聴人１名）

５．次第　１．開会

２．報告事項

（１）第１回委員会の振り返り

（２）調査結果の報告

①基礎調査結果

②市内観光資源調査

③地域担当者ヒアリング調査結果

３．検討事項

（１）計画骨子・計画素案について

４．その他

５．閉会

１.開会

（事務局）

定刻より少し早いですが、ただ今より令和８年度第２回富田林市観光ビジョン策定委員会を始めさせていただきます。本日司会を務めます、商工観光課の柏木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。まずはじめに、今回の委員会より新たに二名の方を委員として委嘱しておりますので、ご紹介いたします。寺内町四季物語実行委員会書記、富田林寺内町を守り育てる会会長の芝本委員でございます。

（委員）

寺内町四季物語実行委員会から委員を一人出していただきたいというご依頼があり、私が出席することになりました。私は富田林全体の観光を考えたことはございませんが、寺内町に住んでおりますので、素人の考えで構わないということで、出席させていただいております。自分なりに考えて、三つばかり提案を用意してまいりましたので、後ほど意見を述べさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございます。また、本日はご欠席ですが、富田林市観光協会会長の杉多委員が新たに委嘱されております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。まず次第、資料１「第１回委員会の意見対応表」、資料２「基礎調査結果」、資料３「市内観光資源調査結果」、資料４「地域担当者ヒアリング調査結果」、資料５「計画骨子」、資料６「計画素案」、以上となっております。皆様、資料はお揃いでしょうか。ありがとうございます。

それでは本日の議事に入らせていただきますが、本来ですと会議の進行は会長にお願いするところでございます。しかしながら、今年７月末の任期満了に伴いまして、今回より新たに各団体からご推薦いただき委嘱を行っておりますので、改めて会長を選出いただきたく、会長の選出までの間、事務局において進行させていただきます。

それでは、会長・副会長を選出いただきたいと思います。富田林市観光ビジョン策定委員会設置要綱第５条の規定により、委員の互選によるとされております。皆様からご推薦をいただけませんでしょうか。

（委員）

事務局一任でよろしいのではないでしょうか。

（事務局）

事務局一任とのご意見をいただきました。他にご意見はございますでしょうか。ありがとうございます。ご意見がないようですので、事務局から提案をさせていただきます。会長には前回に引き続き和泉委員に、副会長には、本日ご欠席ではございますが、富田林市観光協会の杉多委員にご就任をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。拍手でご承認いただけますでしょうか。

（一同）

（拍手）

（事務局）
ありがとうございます。それでは、会長、副会長はそのようにお願いいたします。会長は会長席へのご移動をお願いいたします。それでは、会長よりご挨拶をお願いいたします。

（会長）
皆さん、こんにちは。改めまして、引き続き会長を務めさせていただきます。継続的に進行してまいります会議でございますので、挨拶は割愛させていただきますが、引き続き皆様方のお立場からの重要なご意見を頂戴しながら、富田林市の観光ビジョンを練り上げることができればと考えておりますので、皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

（事務局）
ありがとうございました。それでは、要綱に基づきまして、これからの議事進行を会長にお願いいたします。会長、よろしくお願いいたします。

（会長）
承知いたしました。それでは、限られた時間でございますので、皆様のご協力を得まして進めてまいりたいと思います。
早速ですが、議事に入らせていただきます。まず会議の公開につきましては、過去の委員会の議事において全て公開と決定しております。議事録につきましては、事務局が作成後、会長が確認した上で、ウェブサイト上で公開いたします。なお、議事録作成のため、会議を録音させていただきますので、ご了承をお願いいたします。
また、本日は傍聴希望者が 1 名来られると伺っておりますが、人数に変更はございませんでしょうか。

（事務局）
はい、変更ございません。

（会長）
ありがとうございます。本日は 2 名の委員からご欠席のご連絡をいただいておりますが、委員定数 9 名中 7 名のご出席がございますので、富田林市観光ビジョン策定委員会設置要綱第 6 条第 2 項に基づき、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。
本日の予定でございますが、次第のとおり進めてまいります。よろしくお願いいたします。

２. 報告事項
（１）第１回委員会の振り返り
（会長）
まず報告事項の 1、第 1 回委員会の振り返りにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）
事務局から説明させていただきます。お手元の資料 1、第 1 回委員会の振り返りの A4 のシートをご覧ください。前回の委員会でいただきましたご意見を、六つの項目に分けて記載してお

ります。順番にご説明いたします。
まず一つ目、施策評価・進捗評価についてです。前回の施策評価シートの進捗率について、なぜ進まなかったのかを深掘りして次期ビジョンに生かすべきではないか、というご意見を頂戴いたしました。また、進捗管理に関しまして、地域担当者ヒアリング調査の実施時期はいつになるのか、というご意見をいただきました。
二つ目、インバウンド誘致に関してです。外国人観光客の誘致にあたり、費用対効果の観点からターゲットとする国・地域を絞り込む必要があるのではないか、想定しているターゲット国はあるのか、というご質問のほか、ターゲット国を検討する際は、費用対効果だけでなく、富田林市そのものの魅力がその国の観光客に刺さるかという観点も必要ではないか、とのご意見をいただきました。また、大阪市内に来ている外国人観光客を富田林市に呼び込む観光施策をどのように考えるのか、きらめきファクトリーでは欧米からの来訪者が多い時期があり、国民性と寺内町の相性についての分析も必要ではないか、とのご意見もございました。さらに、市内の学生が外国人観光客と交流したいという声があるものの機会がないため、若者とインバウンドをつなぐ仕組みづくりができないか、また、大阪市内で活躍されている通訳案内士に富田林の案内を働きかけるプロモーションを行い、言葉の課題を解消できないか、といったご意見も頂戴いたしました。
三つ目、ターゲティングについてです。国内の日本人旅行者について、富田林市の宿泊者は 20 代・30 代が多い一方、じないまち交流館の来訪者は 50 代以上が中心となっています。こうした状況を踏まえて、20 代・30 代の宿泊者層がどこを訪れているのかを分析する価値があるのではないか、とのご意見を頂戴いたしました。
四つ目、観光資源・スポットの活用についてです。SWOT 分析の脅威の欄にある「若者の車離れ」について、近鉄沿線に駅があるにもかかわらず、なぜ脅威として挙げられているのか、というご意見や、PL の塔について、宗教施設ではありますが、文化財的・景観的な側面から何らかの形で観光活用できないのか、もったいないのではないか、というご意見がございました。また、錦織公園の来訪者数を約 90 万人とお示ししたことについて、市内・市外どちらからの来訪者が多いのか、市外からの来訪者がメインであることは間違いないのか、とのご意見を頂戴いたしました。さらに、SWOT 分析の機会の欄にある古市古墳群への注目について、どのような根拠から注目されているとしたのか、というご質問のほか、寺内町、錦織公園、サバーファームなど施設ごとに客層の違いがあるので、明確な差別化戦略を検討する必要があるのではないか、とのご意見を頂戴いたしました。
裏面に移りまして、五つ目、ビジョンと市民との関連性についてです。社会潮流の動向の記載が一般市民には分かりにくいため、ビジョンの完成時にどのような姿になっているのかを、市民にも分かりやすく明確に示すべきではないか、というご意見のほか、基本方針に記載のある「生活空間型観光」という言葉が市民には分かりにくいので、市民に寄り添った丁寧で分かりやすい説明・注釈が必要ではないか、とのご意見をいただきました。また、都市間競争の観点から、富田林市の取り組みを近隣の他自治体と比較する視点を加えるべきではないか、とのご意見も頂戴しております。
最後に六つ目、その他です。季節偏在について、解消という課題設定ではなく、閑散期にどのような魅力をつくるかというプラス思考で捉えるべきではないか、というご意見、大阪 IR が大阪都市魅力創造戦略に明記されているため、これをビジョンに記載すべきであり、いつまでに何を行うかという工程を示した方が分かりやすいのではないか、というご意見、二次交通の弱体化への対応策としてシェアサイクルの導入が考えられるのではないか、というご意見がございました。また、大阪市内からのアクセスの良さは日帰りにつながりやすい面もあるため、

宿泊者を今後増やしていくためのインセンティブとなる具体的な施策が必要ではないか、というご意見、そして重点的に取り組むことについては、項目数はあまり多くしない方がよく、特に広域周遊の取り組みが重点になるのではないか、とのご意見を頂戴いたしました。以上でございます。

（会長）
ありがとうございました。前回からの振り返りとして、皆様からこのようなご意見を頂戴したということでございます。本日の内容に全て反映されているわけではないかもしれませんが、生かしていくということで、頂戴した意見を一覧にしていただいております。それぞれにどう対応しているのかについては、以降の議論の中で出てくるのではないかと思います。ただいまの説明について、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

（２）調査結果の報告
①基礎調査結果
（会長）
続きまして、報告事項の 2、調査結果の報告のうち、基礎調査結果について、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）
お手元の資料 2、富田林市観光ビジョン改定業務に係る基礎調査の資料をご覧ください。
まず 1 ページ目の目次をご覧ください。前回からの改定部分についてお話しいたしますので、大幅に割愛いたしますが、国・府の観光政策動向のうち、大阪都市魅力創造戦略 2030 と、富田林市における日本人・外国人旅行者の動向分析についてご説明いたします。
まず 3 ページ目をご覧ください。大阪都市魅力創造戦略 2030 が直近で策定されましたので、こちらの内容を入れ替えております。
続いて 32 ページ目をご覧ください。こちらは富田林市における日本人旅行者の動向分析として、大阪観光局様から提供されたデータをもとに来訪者分析を行ったものです。前回は観光消費額や訪問者数等を実数値でお示ししておりましたが、今後対外的に公表することを考慮した際に、比率で表したグラフであれば公表に問題ないとのことでしたので、このような形で掲載しております。各項目は前回お示しした基礎調査から変更はなく、時点修正として 2025 年度の最新データを反映したものになっております。観光消費額は 2023 年比で伸びており、観光消費単価も伸びております。訪問者数は横ばいとなっております。宿泊者数につきましては、特に大きな変化はなく推移しております。
34 ページ目に移りまして、富田林市における訪問者比率は、年ごとに若干の減少が見られる状況でございます。その下、富田林市における性別訪問者割合は、男性 62.1%に対して女性 37.9%となっております。隣の 35 ページ目、富田林市における性年代別訪問者割合では、50 代男性が最も多く、次いで 40 代男性、20 代男性、30 代男性となっております。その下の富田林市における性別宿泊者割合は、女性が 50.6%に対して男性が 49.4%となっております。36 ページ目には、富田林市における性年代別宿泊者割合を記載しております。20 代男性が最も多く、20 代女性、30 代女性、30 代男性の順となっております。
続いて 42 ページ目をお開きください。こちらが富田林市における外国人旅行者の動向分析になります。前提として、富田林市における外国人旅行者の数は日本人旅行者に比べて極めて小

さいものであることをご理解いただいた上で、ご覧いただけますと幸いです。まず、富田林市における観光消費額は、2023 年比でおよそ倍近くになっております。その下の消費単価は、2023 年比でほとんど変化がなく横ばいの状況です。隣の 43 ページ目、訪問者数については、2023 年から 2024 年にかけて大きく増えた後、横ばいとなっております。宿泊者比率につきましても、横ばいで推移しております。44 ページ目に移りまして、富田林市における訪問率も特段大きな変化はなく、横ばいで推移しております。その下の富田林市における延べ宿泊者数は、2023 年・2024 年に比べ、2025 年は急激に三倍近く増加しております。45 ページ目、外国人訪問者数の国別割合は、中国、韓国、アメリカ、台湾の順に多くなっております。観光消費額もほぼ同様で、中国、アメリカ、韓国、台湾の順に多くなっております。最後に 46 ページ・47 ページ目に、外国人訪問者数の国別推移や観光消費額の国別推移を参考までに掲載しております。基礎調査の説明は以上になります。

（会長）
ありがとうございました。それでは皆様から、基礎調査結果に関しまして、何かご意見・ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

②市内観光資源調査
（会長）
続きまして、調査結果の報告のうち、市内観光資源調査の結果について、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）
資料 3、富田林市観光ビジョン改定業務に係る人流分析調査結果をご覧ください。
まず 1 ページ目に調査概要を記載しております。この調査は、KDDI ロケーションアナライザーを用いて、富田林市内の主要観光スポット 11 箇所において、来訪実態や属性を把握することを目的として実施したものでございます。集計対象は富田林市民以外の訪問者となっておりますことをご留意ください。調査対象の範囲につきましては、11 箇所の主要観光スポットについて、どの範囲のデータを取得したかを 2 ページ目・3 ページ目の赤枠内でお示ししております。
4 ページ目から調査結果のご紹介に入ります。まず（1）来訪者の属性分析として、市内主要観光スポットの来訪状況でございます。寺内町エリアの年間来訪者数を 1 とした場合の比率で整理したものでございまして、滝谷不動明王寺、錦織公園、亀の井ホテル富田林が、寺内町エリアと同程度の来訪者数となっております。
5 ページ目は性別の属性でございます。男性は寺社仏閣への来訪が女性と比べてやや高い傾向が見られるほか、女性は寺内町エリア、亀の井ホテル、錦織神社で男性よりもやや来訪率が高くなっている状況です。
6 ページ目は年代別のグラフになっております。寺社仏閣や歴史文化に関する観光スポットは、基本的に 50 代から 70 代の方々の来訪割合が高い傾向にあります。その一方で、サバーファームや錦織公園は親子連れのファミリー層が多く、親御さんにあたる 30 代・40 代の割合がやや高い傾向にあります。
7 ページ目は（2）来訪者の居住地分析でございます。どの主要観光スポットも、大阪府内から来訪されている方がおおむね 8 割ほどを占めている状況でございます。特に寺内町エリアやきらめきファクトリーは関東地方からの来訪者がやや多めで、また滝谷不動明王寺や、その近辺の宿泊エリアにつきましては、中部や大阪府を除く関西からの来訪者が一定数見られます。隣

の 8 ページ目には、具体的にどの市町村から来ているかのデータを掲載しております。基本的には近隣の自治体からの来訪者がほとんどですが、先ほどの滝谷不動明王寺前の宿泊エリアにつきましては、京都市や神戸市などからの来訪も見られる状況になっております。

9 ページ目からは（3）来訪者数の推移でございます。いくつかの観光スポットのグラフが重なっており、見づらくて申し訳ございません。まず 1 月上旬に、滝谷不動明王寺に新年ということで来訪が集中しています。また、寺内町エリアは、雛めぐりのイベントと重なる 3 月にピークを迎えています。その後、7 月・8 月頃には、サバーファームでお子様の夏休みと重なってピークを迎え、9 月の連休中には収穫体験を求めて来られる方々でサバーファームの来訪者がまた増えております。同時にきらめきファクトリーも、9 月の連休にかけてピークを迎えている状況になっております。その下のその他の観光資源につきましては、一部データのサンプル数が少なく偏りがある点をご留意いただいた上でご覧いただけますと幸いです。

10 ページ目は、（4）観光スポット間の併用状況として、ある観光スポットに行った人が他にどこに行っているかを可視化したものです。赤色の太線で示されているところが、観光スポット間の併用者数が最も多い 1 万人以上の区間でございまして、特に寺内町エリアと亀の井ホテル富田林を結ぶ区間、滝谷不動明王寺と滝谷不動明王寺前の宿泊エリアを結ぶ区間、そして錦織公園・すばるホールから錦織神社にかけての区間で、併用者数が非常に多くなっている状況でございます。

11 ページ目からは、観光スポットの前後の立ち寄り箇所について分析したものを掲載しております。集計条件は先ほどと同じで、集計対象は市民以外となっております。データ収集期間は、寺内町エリアの来訪者数が多い 3 月、5 月、8 月、11 月の各 1 か月間としております。

12 ページ目から各月の状況をご説明いたします。まず 3 月ですが、これはどの月にも言えることですが、立ち寄り前に近鉄沿線からいらっしゃっている状況がお分かりになるかと思います。寺内町周辺での立ち寄り前の状況を見ますと、富田林駅やきらめきファクトリーといった駅周辺からの立ち寄りが多いことがお分かりになるかと思います。13 ページ目は 3 月の立ち寄り後の分析になります。立ち寄り後に行かれるところとしては、近鉄沿線の各駅のほか、先ほどの併用状況の図でもございましたとおり、亀の井ホテルに行かれている方が一定数いらっしゃることがお分かりになるかと思います。

14 ページ目は 5 月の分析です。こちらも先ほどと同様に近鉄沿線が多くなっているほか、5 月ということで、親子連れのファミリー層が楽しめる、お隣の河南町のワールド牧場に立ち寄り前に行かれている方が一定数おられます。一方で寺内町周辺を見ますと、3 月と同様に富田林駅やきらめきファクトリーからの立ち寄りが多い状況がお分かりになるかと思います。15 ページ目の立ち寄り後につきましても、立ち寄り前と同じような状況ですので割愛させていただきます。

16 ページ目は 8 月の分析になります。こちらも同様に近鉄沿線からの立ち寄りのほか、近隣のゴルフ場からの立ち寄りといったデータが見受けられます。17 ページ目の立ち寄り後につきましては、同じく近鉄沿線のほか、近隣の温泉施設に行かれている方のデータが見受けられます。

最後に 11 月のデータになります。こちらも近鉄沿線の立ち寄り数が上位になっておりまして、一方、寺内町周辺の立ち寄り前のデータとして、市内のショッピングモールであるエコールロゼが上位に入っており、訪問前に買い物に来られているのではないかというデータが見られます。立ち寄り後のデータにつきましても、同様に近鉄沿線にお帰りになっている状況をお示ししております。

最後に、20 ページ目からは、11 の観光スポット別の来訪者の入込客数について、参考までに

データをお示ししております。25 ページ目の一番最後は、寺内町エリアにおける歩行者の通行状況として、どの道が多く使われているのかをまとめたものです。こちらは市外の方だけでなく、市内の方のデータも含めて通行状況をまとめております。人流分析の結果については以上でございます。

（会長）
ありがとうございました。市内観光資源調査についてご説明いただきましたが、委員の皆様からご意見・ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

③地域担当者ヒアリング調査結果
（会長）
それでは続けてまいります。報告事項の最後になりますヒアリング調査について、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）
資料 4、富田林市観光ビジョン策定に向けたヒアリング調査結果のまとめをご覧ください。
まず 1 ページ目に、現時点でのヒアリング実施状況を記載しております。現時点で 13 の事業者様・団体様にヒアリングをさせていただいております。
2 ページ目から、論点別にヒアリングの結果をまとめております。時間の都合上、全てはご説明いたしませんが、主要な論点に沿ってポイントとなる点をご紹介いたします。
まず、駐車場・道路インフラにつきまして、大型バス駐車場や来訪者用駐車場の不足が、複数の観光関連施設に共通する課題として挙げられました。また、路線バスが廃線になったことにより、駅からのアクセスが徒歩に限られてしまい、来訪者の負担になっているという声も聞かれました。さらに、都市部からのアクセスについて、二次交通の使い勝手や交通インフラ全体の弱さを懸念される声も多数聞かれました。
次に、周遊・パッケージツアー化についてです。歴史的資源やサバーファームなど様々な観光資源が点のままで連携できておらず、周遊や滞在時間の延伸につながっていないのではないか、という声が多くの事業者様から聞かれました。また、広域周遊の観点では、最近特に増えている高野山へ向かわれる方々や、堺市・大阪市といった政令市の集客力を活用した広域連携に対する期待の声が複数見られました。
次に、認知度・情報発信についてです。SNS 運用の本格化によって集客がだいぶ増えたとおっしゃる事業者様がいらっしゃった一方で、寺内町や富田林市自体の認知度の低さを懸念される声が複数聞かれました。また、富田林市の観光の PR がどうしても寺内町に偏ってしまっているのではないか、という声も聞かれました。さらに、紙媒体の観光ガイドの必要性をご指摘いただいた例もございまして、電子化が進む一方で、グルメ情報以外も見ていただくためには紙の冊子も用意すべきではないか、という声も頂戴しております。
3 ページ目に移りまして、来訪者属性についてです。客層は施設によって幅がございまして、ファミリー層が中心の施設、先ほどのデータでお示ししたようなやや高齢の方が多く来られる施設、逆に市全体のデータよりも若めの 30 代・40 代あたりがメインの施設など、多様でございます。市全体で見ますと、50 代以上の方が来訪者の中心という施設が多い一方で、特定の施設のお話になりますが、講といった伝統的な仕組みによる他地域からの団体参拝や、宴会・研修利用といった一定の需要が見られるなど、施設ごとに異なる状況も出てきております。また、芸術大学をはじめとした近隣の大学を中心に、若年層からの安定的な需要を持つ施設があるこ

とも分かりました。最後に、市内小中学校の遠足需要が、最近の送迎バスの料金高騰によって廃止されるなど、減少傾向にあるのではないかという声も聞かれました。

続いて、インバウンド対応についてです。どの事業者様でも、最近は欧米、特にフランスやドイツからの来訪者のほか、近隣の台湾や韓国から来訪される方が多くなってきているという声が聞かれました。また、先ほどお話しした高野山に向かわれる方の観光ルートの通過点として、一定数の外国人来訪者を受け入れているという施設もございました。その一方で、外国語への対応がまだ不十分であることから、外国人来訪者の受け入れに慎重な施設もございました。

続いて、宿泊・滞在時間についてです。事業者様の共通認識として、市内の宿泊施設が限られているため、特定の宿泊施設への圧倒的な集中を課題とする声が多数聞かれました。そうした中で、宿泊施設同士や、宿泊施設と各観光スポットとの事業者間連携を模索する動きがあることが、いくつかの事業者様の声から分かりました。

次に、担い手・組織体制についてです。住民組織や事業者間の横のつながりといった地域の担い手が、高齢化や人材不足によって非常に厳しい状態になっているという状況が、多数の事業者様から聞かれました。

4 ページ目に移りまして、財源とインセンティブについてです。若年層・ファミリー層向けの事業者への税制優遇や経済的なインセンティブを導入することで、事業者が参入しやすい状況をつくることも一つの提案としてございました。

次に、住環境との両立につきまして、富田林市はいわゆる観光地というわけではございませんので、観光地化を今後進めるにあたっては、住民の生活の場であることを大前提として進めてほしい、という声が多数聞かれました。

次に、新規コンテンツ・資源活用につきまして、複数の団体や寺内町内でのヒアリングにおいて、食や伝統行事、名産品を軸にした商品開発や活用の可能性が示されました。

最後に、5 ページ目の SWOT 総合表につきましては、この後の検討事項でお示しするものになりますので、ご説明は割愛させていただきます。以上になります。

（会長）

ありがとうございました。ヒアリング調査の結果についてご説明いただきました。委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

以上が報告事項でございます。ビジョン策定の基礎として、調査結果を報告していただきました。

３. 検討事項

（１）計画骨子・計画素案について

（会長）

続けてまいります。ここからが検討事項になります。検討事項の 1、計画骨子・計画素案について、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）

お手元の資料５と資料６をご覧ください。資料５が計画骨子、資料６が計画素案となっております。基本的には骨子の内容を素案で膨らませている状況ですので、今回は骨子を中心にご説明させていただきます。

まず第１幕、富田林市の観光振興についての考え方です。こちらは現行ビジョンの内容を基本ベースに採用しております。1 番が「本ビジョン策定にあたって」として、ビジョンの位置づけ、

計画期間、活用方法、2 番が「本ビジョンのコンセプト」として基本理念・基本目標を記載しており、基本的には前回計画を踏襲しております。3 番の「本市が目指す観光振興の 5 つの基本方針」につきましても、5 つの方針は前回計画を踏襲しております。基本方針 3 につきましては、「生活空間型観光」という表現が分かりにくいとのご意見がございましたので、生活空間型観光とは何かを補足的に記載しております。それ以外は、基本的に前回の委員会から変わっておりません。

1 枚めくっていただきまして、裏面の第 2 幕、富田林市の観光の今（現状と課題）です。こちらは、先ほどご報告した基礎調査等の内容をまとめたものになっております。（1）が前ビジョンの施策・事業評価、（2）が社会潮流の動向、（3）が統計データの整理、（4）が市内観光資源の現状で、それぞれ基礎調査やヒアリング調査の内容を記載しております。

次のページをご覧ください。こちらは後ほど意見交換いただくところになるかと思いますが、調査結果を踏まえて SWOT 分析として、内部環境としての強み・弱み、外部環境としての機会・脅威を整理しております。

強みと機会を掛け合わせた積極化戦略としては、富田林の地場産業を磨き上げ、インバウンドが求める「本物の日本」としての体験価値を発揮していくべきではないか、という点や、歴史・文化と食のコンテンツを一体化した周遊ルートを整備する、という点を書かせていただいております。弱みと機会から導き出した改善戦略としては、SNS や動画を主軸とした情報発信を行っていくべきではないか、という点と、観光 DX を推進していく、という点を記載しております。左下の、強みと脅威を掛け合わせた差別化戦略としては、大学生や若者の参画によって、次世代の担い手をきちんと育成していくことが重要ではないか、という点を記載しております。最後に右下、弱みと脅威を掛け合わせた撤退戦略（長期戦略）としては、富田林市を起点とした回遊のための交通網をしっかりと整備していくべきではないか、という点と、観光関連事業者の参入や成長をきちんと支援していくこと、また住民の暮らしとの調和をきちんと図っていくことを記載しております。

次のページは、第 3 幕の戦略・アクション体系、第 4 幕の重点的に取り組むことについてで、本丸になるところかと思います。

1 番が KGI の設定で、基本方針は前回計画を踏襲した 5 つとし、それぞれどのような成果指標（KGI）があるかを案として書かせていただいております。基本方針 1 は観光コンテンツの開発に関わるところですので、観光入込客数、外国人来訪者数、観光消費額などが KGI として考えられます。基本方針 3 の「住みよいまちと観光客が楽しむまちが共存する地域づくり」につきましては、観光に関する市民の満足度や、観光に関する苦情件数などが指標として考えられます。基本方針 4 の「交流人口の増加による地場産業・地域経済の活性化」につきましては、観光関連産業の事業所数・従業者数や、地域経済循環率などが指標として考えられます。最後に基本方針 5 の「滞在時間の延長」につきましては、市内の平均立ち寄り地点数や滞在時間、宿泊者数などが指標として考えられます。

2 番の戦略・アクション体系では、基本方針に基づいてどのような戦略があるか、それに続く施策の方向性、そしてどのような KPI・アウトプット指標があるかを整理しております。

戦略 1 はコンテンツをつくっていくというもので、既存観光資源の磨き上げ、体験型コンテンツや食・お土産の開発、インバウンド向け商品の造成支援、特徴的なブランドの確立といったものが施策の方向性として考えられます。アウトプット指標としては、体験型コンテンツの数、独自ブランドの認定件数、インバウンド向け商品の造成件数などが考えられます。

戦略 2 はプロモーション、情報発信になりますが、SNS や動画による情報発信、多言語対応をきちんと進めるといったインバウンド対応、観光アプリの活用、周遊プランをきちんと発信

していくことなどが考えられます。アウトプット指標としては、SNS のフォロワー数やエンゲージメント数、多言語対応がどれくらいのコンテンツで整備されたかといったものが考えられます。

戦略 3 は人材確保・育成で、観光人材やガイドの育成・確保、大学連携や若者の参画、市民・事業者全体での観光意識の向上、また観光関連事業者がきちんと参入していけるような仕組みづくりが大事ではないかと考えております。アウトプット指標としては、育成人材数、ガイド登録者数、大学連携事業数などが考えられます。

戦略 4 は観光インフラの整備で、駐車場や観光案内サインなどハードの整備、デザインの統一、多言語のデジタル案内の整備、ユニバーサルツーリズムへの対応、きらめきファクトリーの機能の充実などが考えられます。指標としては、整備箇所数や、きらめきファクトリーの年間利用者数などが考えられます。

戦略 5 は広域周遊の推進で、前回の委員会でもご意見がございましたが、近隣市町村との広域連携をきちんと強化していくこと、資源をネットワーク化して周遊ルートをつくること、二次交通の整備、また外国人観光客に向けた広域周遊の推進などが必要と考えております。指標としては、広域連携のイベント数や広域周遊のルート数などが考えられます。

最後に、重点的に取り組むことについて、三つ記載しております。重点テーマ 1 は、主に戦略 1 にあたる部分かと思いますが、歴史・文化と自然を生かした付加価値の高いコンテンツをつくっていくことが重要ではないかということで、国内外の来訪者に価値を感じてもらえるようなコンテンツを造成していく必要があると考えております。重点テーマ 2 は情報発信で、SNS や動画、大学とも連携しながら情報発信を強化していくべきではないか、ということで、主に戦略 2 と戦略 3 にあたる部分かと思います。現状、来訪者が近隣の方や高齢の方に偏っておりますので、広域・若年層・インバウンドへと拡大していくべきではないか、ということで記載しております。最後に重点テーマ 3 は、南河内を拠点とする広域周遊観光の推進です。市内で完結する取り組みももちろんございますが、南大阪全体としてどう捉えていくかが重要と考えておりますので、南河内エリアの広域周遊の拠点としての機能強化、また鉄道会社や近隣市町村と連携しながら、南河内全体を回遊してもらえるような仕組みが重要ではないか、ということで記載しております。骨子の説明は以上とさせていただきます。

（会長）

ご説明ありがとうございました。それでは皆様とともに検討を進めてまいりたいと思います。この資料 5 の骨子をもとに、資料 6 の素案がつくられることになります。本日は何とか皆様とこの骨子について議論してしまいたいと考えております。本日の議論を踏まえて、次回の委員会で観光ビジョンの素案、資料 6 が出てくるという流れが、日程的にはよいのではないかと考えているところです。

資料 5 を少し整理しますと、1 ページ目の第 1 幕と 2 ページ目の第 2 幕は、現行ビジョンの内容を再編したもの、あるいは調査結果ですので、皆様と議論して内容が大きく変わるようなものではございません。そこで、3 ページ目と 4 ページ目を皆様と一緒に議論したいと考えております。

一度に進めると大変ですので、まず 3 ページ目の SWOT 分析から始めたいと思います。この SWOT 分析が、結果的に第 3 幕から第 5 幕につながっていくものと思いますが、事務局案として、積極化戦略、改善戦略、差別化戦略、撤退戦略（長期戦略）について、いくつか黒丸で項目を挙げていただいております。この他にこういう項目を挙げるべきではないか、あるいは今挙がっているものに対するご質問・ご意見など、様々に頂戴できればと思います。いかがでし

ょうか。

（委員）
　前回初めて出席させていただきましたが、私どもは商工会ですので、観光という立場よりも商売人の立場からお話しさせていただきたいと思います。
　まず駅前の商店街についてですが、富田林駅を降りられたら分かると思いますが、閉まっているお店が多いと思います。交流館の近くまで行くと、飲食店など営業されているところもありますが、観光で来られる方は近鉄線を利用される方が多いということですので、駅を降りた時の印象として、商店が開いていて活気があってこそ寺内町まで足を運んでいただけるという面が大きいのではないかと思います。今、きらめきファクトリーはありますが、きらめきファクトリーから先の筋には、開いているお店がほとんどないのが現状だと思います。昔は全てのお店が営業されていて、通ればお店が開いているという感じでしたが、最近は閉まっていたり、高齢化もあって廃業されたりしているところもあります。観光を考えながら、商店の活性化も考えていく必要があると思います。来ていただいた方が買い物をするところがない、見て回るところがないということで、寺内町の散策ボランティアガイドさんと１時間から１時間半散策しても、その後に行くところがないというのが現状だと思います。
　実際、商工会の女性部でおもてなし事業として寺内町の観光をメインにした取り組みをしておりまして、一昨年、福岡の方々に来ていただきました。その時に、まず宿泊をどこでしてもらうかに悩んだというのが１点です。また、スーツケースを持って富田林駅に来られても、スーツケースを置くところがありません。たまたま私どもがきらめきファクトリーの指定管理をしておりますので、そこにスーツケースを置いていただいてから観光していただきました。お昼をどこで食べていただくかについては、飲食店がありますので予約はできるのですが、ガイドさんと回った後、宿泊施設に行くのに足がありません。今はバスがないのです。私どもの場合は滝谷不動の方のホテルに宿泊させていただきましたが、それが今の富田林の現状です。このあたりを改善していかないと、寺内町だけで滞在時間を伸ばすことはなかなか難しいのではないかと感じております。以上です。

（会長）
　ありがとうございます。お立場から専門的なことを教えていただきました。今のご意見について、事務局の方でこれを咀嚼するとすれば何かお考えはありますか。すぐに出てこなければ、少し考えていただいて、また後ほどお伺いできればと思います。

（事務局）
　ちなみに、宿泊施設を運営されている委員から、富田林はどうかというご意見をいただけたらありがたいのですが、いかがでしょうか。他の地域の例や、富田林でホテルを運営されている中でのご経験から、どのような課題があるのか、お話しいただけたらと思います。

（委員）
　課題というところでございますが、先ほどのお話にもありましたように、滞在時間を延ばすためには、行きやすさがないとなかなか難しいと思います。先ほどの調査結果の中で、当ホテルと寺内町が密接な関係にあるとありましたが、これは当ホテルが公共交通機関ではなく自前でシャトルバスを出していて、電車で来られたお客様をご案内できるのが、どうしても寺内町しかないためです。滝谷不動に行きたいとなっても、富田林駅からもう一度電車に乗ってくだ

さい、バスに乗ってください、歩いて行ってください、となってしまいます。富田林に来てご縁をいただいておりますが、このあたりが解決されないと、滞在時間を延ばすことはなかなか難しいのではないかと思います。
　また、先ほどの資料にもあったように、大阪府内の方のご利用が多いとなると、観光施設だけを回ろうという方もなかなかいらっしゃいません。そこで今、当ホテルでは、サバーファームさんと連携して何かできないか、例えば当ホテルのお客様のためだけに朝だけぶどう狩りをさせていただけないか、といったことを模索しております。こうした企業間の連携を強めていけるようなことが、一番重要なのではないかと今お話を聞いていても思いました。以上です。

（会長）
　ありがとうございました。今お話を伺って、企業間の連携のように、異なる業種の方々が一緒にお話をするような機会というのは、商工会としてはいかがでしょうか。

（委員）
　商工会としましては、会員はほとんどが商売人さんですので、企業間の交流会などはあるのですが、宿泊施設の方や観光関係の方と、一般の企業さんが会われるということは少ないです。観光関係の方は観光協会に入っておられますので、そちらで交流などがある方がよいのではないかと思います。観光協会には飲食店もホテルさんも入っておられますので、そちらで交流されると、また別の観点からのご意見が出てくるのではないかと思っております。

（会長）
　ありがとうございます。これまで観光にあまり関わってこられなかった事業所様も、観光に可能性を感じて、新しい枝葉が広がるような展開を見いだせるような方向性について、ビジョンの中に記載があればよいのではないかと思いました。観光ビジョンではありますが、富田林の方々にも富田林の観光の可能性を感じてもらえるような冊子を生み出すべきなのだろうと、今お二人のお話を聞いていて思いました。ありがとうございます。

（委員）
　ご説明ありがとうございました。3 ページ目についてですが、正直に申し上げて、もう一歩踏み込んだ方がよいのではないかという気がしております。おそらくビジョン策定の初期から、方向性としてのタイトル的なものはあまり変わっていないのではないかと思います。
　先ほどご説明いただいた人流分析の調査結果は、事実としてこうなっているということですが、これによってどのような示唆が得られたのか、そしてそれをこのように生かせる、というプロセスがもう少しあってもよいと思います。例えば、まだ具体的な実数が出ておらず、1 をベースにした比率で書かれているので、全体的な温度感やボリューム感が分かりません。インバウンドの数はもともと少ないので、それを踏まえて考えなければならないとは思いますが、これを見て、3 ページ目以降の議論をするにあたってどのような示唆が得られたのかを、もう少しご説明いただいた上で議論するというプロセスがあってもよいのではないか、というのが率直な感想の 1 点目です。
　それから、富田林は何を売りにするのかというところを、そろそろはっきりさせた方がよいと思います。一つに絞ることはできないと思いますが、もう少し踏み込んで、誰にでも分かりやすいキャッチやインパクトを出せるようなものがあってもよいのではないかと思います。分かりやすく言いますと、例えば、失礼ながら羽曳野市であってもあまり変わらないプランが書

かれているだけで、富田林として何なのかというところがもう少しないと、深掘りした議論ができないのではないかという気がいたします。なぜならば、これから2030年に向けて大阪IRができるというところに、いかに取り込んでいくのかという話であったり、それがチャンスであることは間違いないので、都市間競争が激化する中で、富田林としてはこれなのだ、とみんなが揃って言えるようなものをつくっていくことがまず必要だという気がいたしました。

それから、例えば内部環境の強みとして、各大学との連携協定が挙げられていますが、これは連携協定を結んでいるという事実だけであって、例えば学生さんたちの知見を使ってこういうアイデアが出る、というようなことが強みなのであって、連携協定を結んでいること自体が強みというのは少し違うのではないかと思います。こうしたものが中身を見ると結構あります。ものづくり基盤が強みとありますが、ではものづくり基盤を使って具体的にどうするのか、どうすることが結果的に強みになるのか、という深掘りがまだ欠けているのではないかという気がいたします。それが出てくることによって、初めて積極化戦略などが出てくるのだと思います。

先ほど委員がおっしゃいましたが、例えば人流で亀の井ホテルさんと寺内町が結ばれているのはシャトルバスがあるからだということが、そこで初めて分かるわけです。公共インフラが薄いからシャトルバスを出しておられるのだと思いますので、例えば改善戦略の中で、アクセシビリティといったところが前面に出てくるようにしていかないと、教科書的な具体的戦略はなんとなく形として出るものの、また同じような議論をずっと続けることになり、もったいないと思います。できればここでもう一歩踏み込んだ議論ができればよいと思いますし、そのためには分析や、その必要性をもう一歩踏み込んで書いた方がよいのではないか、というのが感想でございます。以上です。

（会長）

ありがとうございます。委員から、調査結果がどのように反映されているのかについて、もう少し深い議論ができるような書きぶり・表現が必要であるというご意見をいただきました。大学との連携のお話は分かりやすかったと思います。確かに、連携協定を結んだこと自体ではなく、そこからどうなっているのかが重要だということですので、書いてあることをもう少し詳細にお書きいただくことが一つだと思います。

また、富田林の売りというフレーズをいただきましたが、富田林の売りと言われれば、市としてはどういうところが考えられるか、どこに期待しているのか、事務局にお伺いしてもよろしいでしょうか。

（事務局）

行政ですので、何か一つを飛び抜けて推しますというのは、なかなかお答えしにくいところがございます。寺内町もそうですし、サバーファーム、他の施設もそうです。対外的に見て全てを推すというのは、当然広告宣伝としてはおかしいので、そういう意味で寺内町に寄っていると言われるところはあります。全国的にPRする中では、やはり寺内町が核になり得るということで中心に置いておりますが、そうなると寺内町だけなのかという印象を市内の方から受けることもあり、難しいところでございます。行政としては、なかなかこれ一本に絞って打ち出しにくい状況です。ただ、広告やPRの部分では、富田林といえば、会長がおっしゃるように、寺内町が一番外に響きやすいとは思います。

（会長）

おっしゃることはよく分かりますし、行政としてのお役目も大変重要かと思います。行政としての姿勢を貫く部分と、目玉となる部分とは分けて考えてよいのではないかと思いまして、観光戦略としては、どこかへ特化していくという姿勢は、私自身は特段問題ないのではないかと思っております。もちろんお立場があろうかと思いますので、なかなかご発言は難しいことはよく承知しておりますが、ぼやけてしまってもどうかと思うところです。委員、何かお考えがあればお願いいたします。

（委員）
特定の施設を推すのはなかなか難しいことは承知しております。ただ、例えば外国の方々は、日本文化の体験など、その施設に行くことよりも、そこでどういう体験ができるのかというところを求めることが、インバウンドに関しては多いと思います。例えば、富田林に行けば寺内町がある、寺内町に行けばどんな体験ができるのか、というところを、寺内町という名前ではなく、ここに行けばどんなことができるのかというキャッチフレーズにして、それから富田林の中へ、というステップがあるのではないかという気がいたします。
もう1点だけ申し上げます。最初にご説明いただいた人流調査は、市外の方々を対象とした分析というお話でした。一方で、ヒアリング調査の中では、例えば市内小中学校の遠足需要など、市内を意識したようなコメントも書かれていたと思います。そうすると、富田林市としてはどこまでを観光と言うのか、というところをもう少し明確にした方が、はっきりした戦略ができるのではないかという気がいたします。市内も含めて全て観光と見る、というのも当然ありだと思いますが、それがどこを指すのかをはっきりさせないと、次の戦略に移せないのではないかという気がいたします。

（会長）
ありがとうございます。今のご意見に対しては、事務局からいかがでしょうか。

（事務局）
おっしゃるように観光ですので、基本的には市外の方が対象という考え方です。ただ、産業の振興や地域の発展という意味では、市内の方も当然対象になります。ターゲットとしては市外の方に向けて取り組みますが、結果的に市内の方にも来ていただくというのが次の目的として出てくるものと考えております。主たる目的は観光ですので、市外の方にこの場所を訪れていただくことが大きな目標だと思います。

（会長）
ありがとうございます。手を挙げていただいておりますので、委員、お願いいたします。

（委員）
最初にご挨拶で申し上げましたが、素人の考えでお話しさせていただきます。
これまでのお話を聞いた中で、まず一つ、最近ショックだったことがあります。富田林駅前の、江戸時代からずっと営業されていた和菓子屋さんが、6 月に閉店されました。これが一番ショックでした。閉めるということは、よほど売れない、お客さんが来ないのだろうと思います。
寺内町のことは、私は寺内町に住んでいますし、いろいろな催しもやっておりますので、また後ほどお話しさせていただきたいと思います。今のお話を聞いて、市役所の方は絶対に言えないだろうから、私が言った方がよいと思うのですが、富田林と言った時に世間で何が出てく

るかというと、あの塔なのです。いろいろと問題があって言いづらいでしょうけれども、あれができたのは私が高校生の時ですから、55 年前です。富田林の人や周りの人は、あの建物があるのが当たり前ですので、何とも思いません。しかし、富田林を知らない人、富田林に初めて来た人は必ず「あの白い塔は何ですか」と聞くのです。あれを利用できるかどうかは私には分かりませんが、利用しないとだめだと思います。PL の花火がなくなり、高校野球の PL 学園もなくなりました。それでも、あの塔は残っているのです。ですから、これを無視して観光の話をするのは間違いだと私は思います。役所がこれを入れづらいのは分かりますので、それは別にしますが、考えるべきだというのが一つです。

あと二つあります。もう一つは、大阪全体を含めて、富田林でも今週・来週と秋祭りがあり、だんじりが出ます。大阪はだんじりのまちです。外国の方はだんじりが好きだと思います。これもいろいろと問題はあると思います。神社が関わりますので、宗教絡みになって難しいと思いますが、富田林にも 30 基ぐらいのだんじりがあり、今週・来週と祭りがあるわけです。これを利用しないのもおかしいと私は思います。

三つ目ですが、昨日たまたまテレビで、大阪のどこかで合併するかしないかという話が出ていました。金剛バスがなくなって、今は四つの市町村でバスを運行されています。そうであれば、このバスを利用して、富田林だけの観光を考えるのではなく、合併はしなくてよいのですが、四つの市町村の観光地を巡るバスツアーをつくられたらどうかと思います。それぞれの市町村に有名な観光地がありますし、富田林もあります。四つの市町村でバスを運行されているのですから、近鉄などの協力も得て、観光バスを走らせたらどうかと思います。寺内町で自分たちがやっていることは、また後ほどお話ししたいと思いますが、とりあえず以上でございます。

（会長）

ありがとうございます。PL の塔に関しては、前回も委員からご意見がございました。確かに、学生と一緒に南河内でフィールドワークをしていると、大阪出身でない学生は必ず「あの塔は何ですか」と聞いてきます。検討事項ではあると思いますが、行政の立場でビジョンの中に位置づけていくのはなかなか難しいのかとも思いますので、そのあたりは一つ宿題として頂戴したいと思います。

また、バスの件ですが、私も地域のバスの審議会に入っておりまして、同じことを申し上げております。広域的に観光展開できると思いますので、本委員会でも広域化の話は必ず出てまいりますので、今のご意見を参考にできればと思います。有意義なご意見をありがとうございます。他にいかがでしょうか。

（委員）

私からは鉄道事業者としての意見になるかと思いますが、今回の資料を拝見しまして、富田林市のポテンシャルを改めてよく整理されていると感じました。お疲れ様でした。

一方で、こうしたポテンシャルがある中で、観光振興を考える上では、富田林単独で考えるのではなく、この委員会は富田林市観光ビジョンの委員会ではありますが、それは一旦置いておいて、当社は鉄道会社として沿線全体を周遊させ、活性化させるという使命がありまして、その視点で申し上げますと、富田林単独で観光を売っていくのではなく、大阪南部全体の広域周遊の中で、富田林市がどういう位置づけなのかを考えていくことが重要になってくると思っております。

ヒアリング調査からも、広域の連携やインバウンド誘客をどうするかというご意見が出され

ていると思いますし、大阪市内や関西空港から来られる観光客やリピーターを、どのように富田林に誘導するかが大きなテーマになってくると感じました。ですので、寺内町単体で考えるのではなく、例えば沿線の話ばかりになりますが、百舌鳥古墳群や高野山、河内長野といった周遊エリアと連携して周遊ルートを形成するのも一つの手ではないかと思っております。こうした広域でのストーリーを形成することで、全体の中で富田林はこうなのだ、という形で魅力を伝えていく方がよいのではないかと思いました。

また、前回の意見にもありましたが、20 代・30 代の方々がどこに行っているのかを調べてほしいというお話は、当社としても欲しい情報・データでございます。この年代やインバウンド旅行者が、実際にどのような場所を訪れているのか、何を求めているのかを把握することがやはり重要だと感じました。その上で、例えば SNS がよいのかといった発信方法や、コンテンツを考えていく方向が、より効果的ではないかと思った次第でございます。視点が少し違うかもしれませんが、以上です。

（会長）

ありがとうございました。広域周遊の件ですね。ルートやストーリーについては、私もそのとおりだと思います。そのあたりは重点的に取り組むことの中で、事務局にも記述いただいておりますが、今後さらに具体的に取り入れて、アクションにつなげていただきたいと思っております。まだご発言いただいていない委員、いかがでしょうか。

（委員）

私が感じたところでは、富田林の強みとして、寺内町という古い町並みがあり、古いけれども博物館のようなものではなく、まだ人が生活しているということがあります。また、農業についても担い手がいますし、伝統産業も産業として続けられています。こうしたところはすごく強みだと感じております。

ただ、それを観光としてコンテンツ化する際に、実際にそれをお仕事とされている方々にご協力いただくことになりますが、結局は仕事の手を止めてご協力いただくことになってしまうというのが、難しいところになります。そこを何かしらサポートできるような形で、富田林市ならではの魅力を深めていければよいのではないかと思いました。

（会長）

ありがとうございます。観光コンテンツ化の流れの中で、地域の方々や事業者の方々に、手を止めてご参加いただいているということですね。このあたりは、先ほどの商工会の委員のご発言とも絡んでくるところだと思います。事業者の方々にも観光に参加する意義を感じていただけるような、そういう議論になればと思います。

それで、いろいろなご意見があって、もちろん全て取り込んでいくことにはなると思いますが、日程的なこともあり、事務局様もここまでまとめたいというところがおありだと思います。私から事前のご相談なしの提案で大変恐縮ですが、先ほど委員がおっしゃったように、もう少し深い議論ができるような書きぶりにした SWOT の表を、本日の議論を踏まえて、次の委員会より前にメールなどで配布していただけませんでしょうか。それを委員の皆様にご覧いただいてご意見を頂戴し、それをもとに素案を次の委員会で出していただく、という方向で、メール審議ではありませんが、一度メールで議論する時間をつくった方がよいと思います。このまま進めるのはやはり難しいかと思いますので、ワンクッション置きたいのですが、事務局様、それで進めていただけますでしょうか。

（事務局）
スケジュール感としましては、11 月中に次の委員会で素案の最終案を固めたいと考えております。それを逆算しまして、日程はまだ調整中ですが、例えば 11 月の頭頃に配布できるものを作成させていただき、それを踏まえて 11 月中旬から下旬に第 3 回委員会を開催させていただくスケジュール感であれば対応可能かと思いますので、こちらでもスケジュール感を持って検討させていただきます。

（会長）
ぜひともお願いいたします。それから、少し気になっているのが、富田林の売りは何かという話です。皆様にお伺いしたいのですが、富田林のこういうところが期待できるのではないか、というところを教えていただけませんでしょうか。

（委員）
先ほど委員がおっしゃったように、富田林だけということではなく、広域の中に必ず富田林が入っているという形が考えられます。例えば分かりやすく言いますと、四国八十八ヶ所巡りがありますが、あれは順番になっているので、必ず行くわけです。ああいう仕組み化をするというか、ああいうモデルを富田林でも、と思います。
一例ですが、大阪はあまり国宝がないと思われがちですが、実は日本で 4 番目に多いのです。大阪観光局では、その国宝を集めて特集を組んでおりまして、市内に集中しているお客様をいかに府域に回していくかという手段の一つとして、国宝を使っています。もし富田林に国宝があれば、必ずそうした「回りましょう」という仕組みの中に入るわけですので、一度来ていただくだけではなく、仕組みとして来ていただけるようなものがないのかどうか、と思います。それをやろうと思えば、富田林の中だけではなく、他の地域とのストーリー的な組み合わせがないのかどうかなど、いろいろとできる可能性は十分にあると思います。
富田林の売りは何かと考えた時に、失礼ながら、河内長野とどう違うのか、羽曳野とどう違うのか、というところが、一般の方々、特に外国人にはなかなか分からないのが実態です。それでも、ここに来てもらいたいということであれば、何かアドバルーン的なものを上げておかないと、絶対に注目もされません。SNS などでの地道な活動ももちろん大事だと思っておりますので、否定は全くしませんが、そうした仕組み化するような動きが、そろそろ求められているのではないかと思います。
例えば、先ほど商店街の話も出ましたが、大阪の中にもいろいろな商店街があり、商店街同士をぐるっと回るような仕組みをつくったりしています。そういう意味で、一つのテーマにのっとって、エリアを超えて横軸で循環するような流れをつくれないか、という視座が必要ではないかという気がいたします。その中で、例えば寺内町のように、実際に生活が営まれている、日本文化そのものとしての建物が残っている地区と、例えば食などを組み合わせることで、こちらに行ったら必ずこちらにも行かなければ、というように必ずペアとして入っている、という考え方があってもよいのではないかという気がいたします。

（会長）
なるほど。有用なご意見ありがとうございます。今いただいたご意見も踏まえて、事務局の方で考えていただきたいと思います。他の委員の方も改めていかがでしょうか。

（委員）
今、具体的に言っていただいて本当にありがたいと思います。テーマで横串を刺すということが重要だと思います。この会に鉄道会社である我々が入っているのは、おそらくその役割を一部担えるからではないかと思っておりますので、ぜひ活用していただければと思います。よろしくお願いいたします。

（会長）
ありがとうございます。宿泊施設というお立場からご覧になって、何か感じられることがあれば教えてください。

（委員）
市が実施されている周遊の施策にも、当ホテルは参画させていただいております。ただ、それがもっと広がる、もっとメジャーなものになるというのは、なかなか難しいのだろうと思います。そのあたりがもっと大きくなればと思います。
また、当ホテルもそうなのですが、飛鳥・藤原が世界遺産となり、高野山も世界遺産ですので、富田林はちょうどその真ん中あたりに位置しています。それが決まった瞬間に、当ホテルに旅行会社さんからツアー造成のお話がどっと入ってきました。そういうことを考えますと、そうした誘客を何とかしてやっていくことが一番よいのだろうと思います。メジャーなところで、いろいろな人に情報を伝えようとすると、そういうところなのかと思いました。

（会長）
ありがとうございます。世界遺産絡みで、実はこちらにも影響があるということですね。そういうところも考えながら、いろいろなことと繋がっていくような観光地として、必ず来てもらえるようなシステムや仕組みを構築していくということも、ビジョンの中に組み入れるべきなのだろうと、皆様のご意見を伺いながら思いました。それでは、住民というお立場からもお考えをお聞かせください。

（委員）
寺内町に住んでいる人間からお話しさせていただきますと、富田林は、我々住んでいる人間からすると観光地ではないのです。居住地なのです。とにかく安心で安全で、災害や犯罪のない静かなまちであってほしい、そこに住み続けたいという思いでおります。
ただ、私は寺内町四季物語実行委員会、寺内町を守り育てる会のメンバーとしても出ておりますが、観光地ではないとは言いながら、一方で、重要伝統的建造物群保存地区に選定されて来年で 30 年になります。これは守っていかないといけないのです。なぜかといいますと、先人が努力して選定していただいたわけです。今のまちを守り続けようとしても、何もしないで放っておくと、高齢者が亡くなっていき、若い人が家を出ていき、まちは廃れてしまいます。そこで、例えば寺内町四季物語では、春夏秋冬の年 4 回、いろいろな行事をさせていただいております。寺内町を守り育てる会もそれに共催し、それ以外にもわずかですが、いろいろな行事を行っております。
それについて、市はお金のない中で援助してくださっています。ただ一方で、担当者からも、今以上の支援はできないと聞いております。これは金銭的な問題だと思いますので、なかなか今以上のお金は出ないというのが現実だと思います。そうであれば、もし寺内町を富田林の観光の一角、あるいは中心に置こうとするのであれば、やはりお金が間違いなく必要です。市に

お金がないのであれば、府から取るしかないと思っております。これも言ってはいけないのでしょうけれども、大阪府は宿泊税を取っており、今、年間 80 億円ほどあるらしいです。そのうちの 1%でもよいので、富田林の観光のために回してほしいという折衝をしていただきたいと思います。これも言ってはいけないのでしょうけれども、大阪府は文化財には 1 円もお金を出してくれません。しかし、観光であれば何がしか出してくれるだろうと思います。それでお金が入ってくれば、我々寺内町に住んでいる人間が、重要伝統的建造物群保存地区の町並みを守っていくためにそのお金を使っていける、という気持ちでおります。ですから、観光地になってほしいと思いながらも、何とかまちを守りたいからいろいろな行事をしているのだ、ということだけはご理解いただきたいと思っております。以上です。

（会長）
ありがとうございます。それでは、まだご発言の少ない委員から、富田林の売りという観点で何かご意見があれば頂戴したいのですが、いかがでしょうか。

（委員）
先ほども申し上げましたが、富田林は実際に人が生活し、活動しているという部分が観光になるのではないかと思いますので、そこをうまくつなげられるような仕組みやサポートができればよいのではないかと思っております。

（会長）
ありがとうございます。

（委員）
私は、やはり重要伝統的建造物群保存地区である寺内町が、富田林としては一番大きなものだと思います。先ほど委員も言われましたように、地元の方がそこに住んでおられますので、その方たちの気持ちも考えた上で、寺内町をどのように表に出していくかということが一番大切なことではないかと思います。観光の面ばかりを出して人を呼ぶと、人が来られることによって環境が乱れることもあると思いますので、そのあたりも考慮した上で考えていかなければならないと思っております。

（会長）
ありがとうございました。皆様からいただいたご意見を参考にして、事務局の方でお考えいただきたいと思います。
時間がございませんので、このまま 4 ページ目に進みたいと思います。先ほど事務局よりご説明いただきましたが、KGI、戦略・アクション体系、重点的に取り組むことについて、ご意見を頂戴したいと思います。全体を通してご意見をいただいても結構です。3 ページ目が固まらないと、というところはあろうかと思いますが、4 ページ目をご覧いただいて、こういうところが足りないのではないかということも含めて、ご意見・ご質問を頂戴できればと考えております。
私は座長ですので、あまり意見を述べるつもりはございませんが、委員の皆様がおっしゃっているとおり、私も事務局様には、重点テーマの中でも特にこの広域周遊観光の推進に力を入れるべきではないか、とお願いしております。この広域周遊観光についてはそのとおりだと思いますし、先ほど委員がおっしゃったとおり、鉄道会社様から 2 名も会議の委員にご参画いただいているというのは、いろいろな会議に出席しておりますが、あまりないことだと思います。

先ほど、活用していただいたらよい、というかなり積極的なご発言も頂戴しましたが、そうしたことも含めて、第3幕から第5幕、特に第3幕・第4幕は、これからの富田林の方向性を書き込むものですので、皆様のご意見を頂戴して、富田林市様にとってよりよい観光ビジョンになればと考えております。この部分だけを切り取って意見を出しにくいということは重々承知の上ですが、日程と時間を見ながらの発言で申し訳ございません。いろいろなご意見で結構ですので、よろしくお願いいたします。

進め方はいろいろありますが、先ほど申し上げたように、このページについても、今回の皆様のご意見を頂戴して、もう少し細かなものを作成していただき、それについてメール上で一度ご意見を返していただいた上で、11 月後半の次の委員会の場で、改めて皆様からいただいたご意見を踏まえて、資料6の素案として書き込んでいただくというのも一つかと考えております。本日時点で4ページ目だけについてご意見をいただくのは、なかなか難しいかと私も思います。委員、いかがでしょうか。

（委員）

4 ページ目について、先ほど少し申し上げたことと重なりますが、KGI の設定と戦略・アクション体系、施策の方向性がありますが、これは富田林でなくてもどこにでも当てはまるのではないかと思っております。申し訳ないですが、富田林に置き換えた時にどうなるのか、という例示がもう少し欲しいと思います。

逆にお伺いしたいのが、例えば基本方針 1 の KGI に観光消費額がありますが、観光消費額を KGI に置いて頑張るというのは、もちろんそのとおりだと思います。では、富田林に置き換えた時に、どこでお金を落としてもらうのか、というところなのです。お金を落とすところはどこなのかと聞かれた時に、具体的にどういう箇所でどんなイメージになるのか、という具体的なイメージを持ちながら、この方針を立てていただいた方がよいのではないかと思います。今のままでは教科書と同じです。観光に関する市民満足度は高い方がよいに決まっていますが、では具体的にどこまでを目指すのか、ということを意識しながら KGI の指標を考える、今どの位置にいて、例えば 2030 年にはどういう富田林の姿が想定されているのか、ということです。

例えば先ほど委員がおっしゃいましたが、実際に寺内町に人が住んでいるという話になっているわけです。では住民との共生を本当にどのように一つ一つ判断していくのか、といったところは、5年前、10年前にもおそらく議論があったと思います。そろそろある程度の方向性を出さないと、また5年後も同じような議論をするのではないかと感じますので、もう少し踏み込んで KGI などを考えていただければ、という考えでございます。

（会長）

ありがとうございます。それでは事務局、いかがでしょうか。

（事務局）

貴重なご意見ありがとうございます。第3幕・第4幕についてですが、全体の体系の考え方としましては、この下に5か年の実施計画がございまして、そこで個別の施策や目標を設定させていただくというのが前回のパターンでございます。今回もその形を考えておりますので、ここに具体的に何パーセント上げるといった内容を書き込めるかどうかという難しさはございますが、ご指摘いただいた点を今回のビジョンの中にどう入れ込めるかについては、考えていきたいと思っております。

（委員）
おっしゃるとおりで、ここに書けという意味で申し上げたわけではございません。こうしたことを意識した上で観光消費額という言葉が書かれているのであればよいのですが、ただ単に言葉が並んでいるだけではどうか、という意味で申し上げました。

（会長）
ありがとうございます。今の事務局からのご説明のとおり、委員がおっしゃったような細かなことに関しては、この方向性のもとに紐づくアクションの中で実際に考え、実施していくということかと思います。資料ではなかなか見えないので、こういう議論になるのだろうと思いますが、そういう形になっているというご説明であれば、私もよいかと思います。他にいかがでしょうか。

（委員）
基本方針 5 の滞在時間の延長についてですが、滞在時間はなかなか長くするのが難しいと思いますので、立ち寄り地点数が多いということは、それだけ周遊できたということですから、周遊率的なもの、例えば寺内町に行ってからここに行きました、ここに行ってからあそこに行きました、といった割合がどれだけあったかを測っていけば、それが周遊ツアー造成のきっかけやネタにもなるような数字になるのではないかと思います。そういったものも入れてはどうかという一つの意見です。

（会長）
ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、本日の議事をまとめさせてください。繰り返しになるかもしれませんが、事務局様におかれましては、3 ページ目の内容について、もう少し詳細に、より深い議論ができるように、皆様のご意見を踏まえて修正していただき、それを次回の対面の委員会の前にメールでお知らせいただいて、委員の皆様からメールでご意見を頂戴する、ということにしたいと思います。
そしてそれを踏まえまして、次回の対面の委員会では、観光ビジョンの素案をきっちり仕上げていただき、重要なことは、この 4 ページ目の内容が素案のこのページに詳しく記載されている、という説明ができるような会議にしていただきたいと思います。次回の対面の委員会の中で、詳細なご意見を頂戴しながら、ビジョンの素案をまとめていくということです。また、アクションプランについては、次回の委員会で出してくださいという意味ではなく、今後富田林市様がお作りになる観光ビジョンをもとに、どのようなアクションプランが必要なのかを、きちんと課の中で把握しておかれるべきだろうと思います。
このような形で会議を進めてまいりたいと思いますが、委員の皆様、事務局様、この進め方でよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、次回の対面の委員会の前に、ワンクッション置かせていただくということで、よろしくお願いいたします。
それでは、時間も迫っておりますので、その他について事務局様よりお願いいたします。

4 . その他
（事務局）
皆様、本日は貴重なご意見を頂戴いたしましてありがとうございました。スケジュールにつきましては、先ほども申し上げましたが、第 3 回委員会を 11 月中に開催できればと思っており

ます。日もあまりございませんので、本日終了後、できるだけ早急に調整させていただきます。先ほどお話しいただいた、書面で資料をお送りするところも踏まえて、スケジュールを組ませていただこうと思っておりますので、11 月中旬か下旬頃の日程になるかと思いますが、また日程調整させていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。以上でございます。

５. 閉会

（会長）

ありがとうございました。皆様、その他ご意見・ご質問はございませんでしょうか。

それでは、本日の議事はこれで終了したいと思います。次回の日程等については事務局より連絡があると思いますので、ご対応よろしくお願いいたします。本日はご多忙の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

以上。